

## 米国コロラド障害者センター自立訓練プログラムにおけるクライミングプログラムの意義

○木本 多美子<sup>(1)</sup>、小林 幸一郎<sup>(1)</sup>

(1) NPO法人モンキーマジック

### 【目的】

本調査の目的は、米国コロラド視覚障害者センター（Colorado Center for the Blind /以下 CCB）において設立当初 1988 年より必修で行っているクライミングプログラムが、自立訓練プログラムにおいてどのような意義があり行われているのかを明らかにすることである。

### 【方法】

視覚障害者に対する自立訓練プログラムを行っている CCB を訪問し、2013 年 9 月 20 日 CCB におけるロッククライミングプログラムのフィールド観察（ビデオ撮影、訓練生 6 名に対して自由回答のクライミングに対する感想を聞くインタビュー）を行った。その後 1 週間以内に訓練生 1 名、CCB プログラム担当スタッフ 1 名に対してそれぞれ 1 時間程度の半構造化インタビューを行い、それらの質的データに対し KJ 法にて分析を行った。

### 【結果と考察】

6～9 か月の自立訓練にクライミングプログラムを導入する価値として、CCB スタッフからは「訓練生同士の信頼、社会性」「訓練生の自信、達成感」「スタッフに対する信頼」、訓練生からは「訓練生同士の信頼」「訓練生の自信、達成感」「クライミングと対峙した自分と人生に対する投影」が挙げられた。それらは、クライミングを通しての体験、例えば「怖い」「諦めたい」という心理が働く中、諦めずチャレンジした事、自分自身でさらに一步踏み出しゴールを自分の手で掴んだ事、命綱を通じで相手（訓練生）を信頼する、信頼されるという事等「実際の体験」から得た効果であった。クライミングを含むアウトドアプログラムの体験を利用して気づきや行動の変容を促す手法に「冒険教育」と呼ばれるものがある。本プログラムも CCB では、訓練生がクライミング体験から「壁」を乗り越えるという体験を経て、社会に出ても自分次第で「壁」を乗り越えられるという気づきや自信が獲得される可能性の意義をもって行われているといえる。